

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 1号館		
所在地	北海道歌志内市字中村34番地1		
自己評価作成日	平成27年9月16日	評価結果市町村受理日	平成27年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0177100286-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・社内、社外研修を通し個々のスキルアップをはかると共に、適切な介護技術の向上を目指した職員一人一人が入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりをもつようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、共に生活している。</p> <p>・市内のお祭りに参加したり町内河川清掃や神社の除雪などを行い地域とのつながりを大切にし、交流機会の確保や協力関係を築いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームななかまど歌志内館は、歌志内市の幹線道路が南北に広がる南側に立地し、景観にも恵まれ、近くには道の駅や協力診療所、体育館などがある。開設から今年で12年を迎え、近隣には馴染みの風景や知人と交流できる道の駅があり、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられるように努めている。以前は商業施設であった建物を改修し、利用者は家庭的な雰囲気の中で愛犬クロと共に安心して暮らしている。地域との信頼関係を構築し、管理者と職員は地域に根付くように日々努めている。利用者や職員は、地域で開催される祭りやイベントには積極的に出掛け、地域の一員として交流を続けている。また、職員と利用者が一緒に行っている食事作りは、利用者と一緒に会話を楽しむ大切な時間として続けている。職員同士の信頼関係も構築しており、理念に表現している意義を個々に捉え、自分の信念として利用者との関わりを誇りを持って支援している。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 グループホームななかまど歌志内館 1号館	定期的にミーティングを行っており、その時に理念を復唱する事で、全職員が共有出来ている。又、入居者の思いを叶える事ができる支援を心掛けている。	現在掲げている事業所の理念は、地域密着型を意識して作られたものとなっている。毎日ミーティング時に唱和して確認し、職員はポイントを捉え自分の信念として、利用者との関わりの中で支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の施設や行事に利用者と積極的に参加し、地域と交流している。	市内で開催されるイベントや祭りには積極的に出かけ、交流できるように努めている。近くの道の駅では知人と会うことも多く、楽しみの機会となっている。敬老会の参加や温泉での入浴、子供達との交流の機会は不定期のため減っており、今後の課題として検討を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催、看護実習生等の受け入れや施設見学の対応を行っている。又、地域の行事にも出来る限り参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。地域行事や提供しているサービスについて情報交換を行っている。	地域包括支援センター・行政職員、社会福祉協議会、町内会長、老人クラブ、民生委員などが参加して運営推進会議の開催を続けている。会議では事業内容の報告以外にも様々な意見が出され、運営に反映している。会議録も丁寧に作成され、事業内容や事故報告、災害の取り組みなど透明性の高い内容となっている。しかし、家族の参加や報告が十分とは言えない。	運営推進会議では、運営に関する情報への家族の関心が高くなっているため、議事録などを家族へ直接送付することで情報の共有を図り、会議への出席要請や議題の提案が行われるよう期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係各所との繋がりを強める事で、利用者様の紹介をいただき、情報交換を行っている。	広域連合や行政には、相談や問い合わせ、手続きなどで直接窓口に出かけ信頼関係を築いている。運営推進会議には行政職員の参加もあり、市内の状況報告や質問の回答を得ている。地域ケア会議の開催もあり、他事業者との情報交換の機会もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように内部研修を一人一人理解を深めている。玄関の施錠は夜勤帯のみでおこなっている。	身体拘束に関する研修は年1回の受講を必須としており、職員の周知に努めている。身体拘束を行わない規定を設け、利用者により優しいケアを行っている。センサーマットの設置者が多く、今後はケアプランに記載することで、実施状況の確認が行われるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を通して得た知識を活用し、全スタッフが高い意識を持ち日頃より取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回の成年後見制度の内部研修を行い、成年後見制度について正しく理解できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はしっかりと時間をもち、説明を行ない、それ以外にも面会時、電話連絡時等何時でも説明、同意が出来る体制を整えて、実践している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	NPO総会を行い、職員全体に提案を聞く機会を設けています。役職者会議時に機会を設けています。	家族の面会時や連絡した時に現状の報告を行い、今後の希望や要望を聞いている。担当者会議には家族も一緒に参加してもらえるように声掛けし、各担当者は丁寧に直接話ができる機会を持っている。利用者からは日常の様子や会話から想いを聞きとっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を用いて管理者に意見、提案等を伝え、パイプ役として代表者に伝えるようにしている。	月1回全体会議を開催し、運営に関する内容について情報を共有している。各ユニットでは毎日申し送りし、都度カンファレンスをしている。各自が自己評価をして管理者がまとめ、本部に提出し、個々の面談により提案を聞く場面と人事評価の仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を確認し希望休暇等を考慮した環境作りを行っています。定期的に面談を行い、職員の心身・勤務状態を確認している。また、研修参加や資格取得を推奨し、キャリアアップを応援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力にみあった外部研修に参加出来るよう促しています。内部研修では職員が講師となり事例発表などの研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	自施設の行事・研修等への招待や同業者施設の行事には出来る限り参加してもらえる様環境作りや近隣の河川清掃や24時間ソフトボール大会等にも積極的に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を定めて買物支援など生活全般のサポートを実施。生活歴を把握し相互の関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を通じ、ご家族様の思いの把握に努め、管理者・介護支援専門員・担当職員などそれぞれの立場で窓口となり連携を取りながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで生活されていた環境の把握に努め、アセスメントを通して必要とされるサービスの検討に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事に着目しご入居者様の培ってきた物を大切に生活のサポートが出来る様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご入居者さまの様子をお手紙にのせ報告しています。また、面会、行事参加、外出・外泊を積極的に依頼し支援して貰える様、関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用されていた美容室を継続的に利用したり、ご友人や知人などいつでも来設出来る様に支援をしています。	調理の得意な利用者にもみそ汁作りを任せたり、事業所の菜園を管理してもらうなど、力を発揮できるよう支援している。以前から趣味としていた囲碁などを楽しむ機会もある。馴染みの理美容室の継続や、道の駅で出会う知人との交流も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶会を開いたり調理参加など共同で行えるような支援作りを通じ、支援している。あまり相性の良くない入居者さまは職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新たな相談の受け付けや退去先や入院先への面会、冠婚葬祭への参加など行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の伝達が困難なご入居者さまにはご家族様とも相談しジェスチャーやタッチング等を行い反応を考慮し支援しています。	担当制とし担当者は、家族の面会や連絡時に利用者の様子を伝え、要望も聞きとっている。記録に残すことで職員間で情報の共有も図っている。日常の様子や会話からの気づきを大切に、半年毎にアセスメントシートに落としている。見直し時期には家族も参加してもらえるように働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等を用いて、ご家族様に記入の協力を頂いたり、関係機関等から情報を頂ける様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や水分・排泄チェック、バイタルチェックなど項目別に記録をとり現状の把握に努め、毎日ケアプランからどの支援を行うか取り決め実施しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の要望・希望を取り入れたケアプランを作成する為に、ご家族様・関係職種にも会議に出席して頂ける環境を作っています。	介護計画書は各居室に掲示され、何時でも確認ができる。日々の記録は計画のサービス内容の確認と、目標に沿った記録が連動したものとなっている。記録はパソコンで入力し、職員にとって負担のない簡潔な様式となっている。担当者が毎月モニタリングし、半年後計画作成担当が総合評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録・運営日誌にて情報を共有したい事や気づきなども記録できる書式になっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者さまに合わせて受診・外出・買い物など希望に合わせた支援が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から地域との繋がりを把握し、地域のお祭や町内会で開催される忘・新年会への参加を積極的に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れて適切な医療を受けられるように支援している。	利用前のかかりつけ医の継続もあり、事業所の向かいにある診療所から、月1回の訪問診療を受けている利用者も多い。医療連携体制により、訪問看護ステーションから週2回健康観察の訪問もある。適切な医療を受けられる体制を作り、受診後には家族に電話や毎月の便りで経過を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と朝礼や申し送りにて情報共有に努めています。また、協力医院とも随時、報告・連絡・相談を行い連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書を作成し情報の伝達を実施。入院中は電話連絡や面会にて治療経過を把握し本人の状態を確認しています。医師や家族様と相談を重ね早期退院を目指しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについては、早期に家族に説明・意向を確認しながら主治医と連携しその方にあった最良の支援が出来るよう情報共有に努めています。	重度化・終末期の在り方や、このホームでできる最大のケアについて、入居時やその後の状況に合わせて丁寧に説明を行い、同意を得ている。時期を見て再確認もしている。市内に対応可能な医療機関がなく、地域の実情からターミナルケアの受け入れは困難であるが、その後の対処や支援を続け、家族が安心できる対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや緊急連絡先等の整備を行ない救急車要請の研修を行なっている。また定期的に行われる救命救急講習に参加し迅速な対応が出来るよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練の他に、消防署の立ち会いの元で避難訓練を実施。地域住民の方にも参加を要請し協力体制を整えています。	年2回夜間想定を中心に、消防の協力を得て避難訓練や救急救命、消火訓練を行っている。町内とは協力の覚書を交わしているが、合同訓練の開催には至っていない。地域の構造から水害や土砂崩れ警戒地区にも該当し、継続的な訓練や対策が必要と考えている。	災害対策については万全ということはなく、今後も地域として考えられる対策や対応について検討を続け、地域の方の協力が得られるよう取り組むことが望まれる。訓練時には、地域の方にも参加してもらい、事業所内の様子や利用者の避難状況を確認してもらえよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を目標とし、ご入居者さま気持ちに配慮した言葉かけとなるようにその人の立場となった支援を行っています。	基本は名字で声掛けしているが、本人や家族と相談し昔ながらの愛称で呼ぶこともある。一人ひとりの尊厳と人格を尊重できる対応を心がけている。気になる言葉や声掛け・仕草などに気が付いた時は、職員同士が注意し合える環境を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で積極的にアプローチしたり、傾聴姿勢で対応したり状況に応じて工夫しています。またご入居者さまに応じて自己選択・決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご入居者さまの希望を確認し、ご入居者様のペースで過ごせる様可能な限り希望に沿った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者さまには、おしゃれの楽しみを感じて貰える様に洋服選びや身だしなみの支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった食材を用いた献立を作成するほかに、定期的に嗜好調査を実施。役割支援として調理参加や下膳など残存能力を引き出せるような支援を行っています。	利用者は皮むきや米とぎ、みそ汁作りに参加し、利用者と職員と一緒に作る家庭的な食事が提供されている。食後の片付けや食器洗いなどを手伝う姿も見られる。天気の良い日には外でバーベキューをしたり、回転寿司で外食を楽しんだりするなど、場面の工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の量は必ず記録し、一人一人の状況をチェックしている。また、嚥下状態に合わせた食事形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや誘導・声掛けにて一人一人の状況に合わせた口腔ケアを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分摂取量・排泄チェック表を使用し、個々の排泄状態を把握し状況に応じて、随時排泄の見直しをし支援を行っています。	日中も夜間もトイレ排泄を基本とし、利用者の排泄パターンを理解したうえで声掛け誘導している。緊急で入院し排泄動作が低下して戻られた場合も、以前の状態に回復できるように支援している。パットやおむつ使用で金銭的負担が軽減できる取り組みも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や運動を中心に自然排便を促しています。排便が困難な方には主治医と相談し下剤の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回以上の入浴が行える様に調整すると共にご入居者様の希望や状況に応じて対応しています。また音楽をかけるなどリラックスした入浴支援に努めています。	毎日入浴の機会があり、希望に沿った対応となっている。1日2～3名の支援でゆっくりと入浴ことができ、毎回お湯の入れ替えや入浴剤の使用、浴室で音楽を聞くなど、楽しみながら入浴している。職員と一緒に近くの温泉を利用したこともあり、今後も実施を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者さまの体調を考慮し臥床支援を行ったり、休憩時間や就寝時間の調整など行える様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストや受診時は記録にて確認。変更時は日誌や申し送り時に情報共有を実施。減薬などをケア会議などで検討し主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活能力を活かしながら、声かけ・支援をしているがスタッフ本位で行ってしまうこともある。今後はご入居者さまの意欲向上に努めていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の温泉施設の利用やご入居者さま意向を読み取り外気浴など行っています。遠方のご家族様には相談・協力を要請し対応しています。	日常の散歩や日光浴にはできるだけ出掛けている。事業所内の菜園を観察したり、広場に出て食事をしたりし、外気に触れる機会も作っている。外出行事では花見、ランフェスタ、紅葉狩りに出かけ、食事やソフトクリームを食べるなど楽しんでいる。行きたい所に行ける、出かける意欲を引き出せるように促すことを目標に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難なご入居者さまはご家族様との連携をとり自分でお金を支払えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の要望で携帯電話を所持されているご入居の対応で、いつでも連絡が取り合える環境を作っています。操作が困難になる時には声かけで対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのご入居者さまがゆっくり過ごせる環境として座席配置の考慮を行う他にソファーなどにゆっくりと腰を降ろせる環境作りを行っています。	商業施設を改装した建物であるが家庭的な雰囲気、以前の生活が違和感なく続けられるように、家具の配置や装飾を工夫している。椅子やソファーが色々な場所に配置され、利用者はそれぞれの場所で寛いでいる。愛犬が事業所の一員として一緒に暮らし、来客者を歓迎したり利用者となふれあったりし、利用者の笑顔に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子の用意やソファーなどを置き一人の空間や個人のペースがゆっくりと取れるようスペースを用意しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使われていた馴染みの深い物や昔を思い出せる物(タンス・布団・賞状など)を持ってきていただき、居室で過ごされる際のストレス解消を図り、利用者様の生活スタイルにあった工夫を行っています。	適度な広さの居室は、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、その人らしさが醸し出されている。仏壇やテレビもあり、自分の家にいた時と同じような雰囲気が作られている。家族の写真や作品が飾られ、安心して暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉にはトイレの写真や文字を貼り出し、理解しやすいよう配慮している。また廊下や各居室、トイレ、浴室には手すりを設置し、安全で自立した生活を送れる環境となるよう工夫している。		